

ブラジル中央銀行が追加利下げを決定

～利下げは次回会合が最後になる見通しを表明～

◆7会合連続の利下げ

ブラジル中央銀行(以下BCB)は5月6日の金融政策決定会合において、全会一致で政策金利(翌日物国債レポ金利)を0.75%引き下げ、過去最低となる3.00%とすることを決定しました。利下げは、7会合連続となります。ブラジルでは、新型コロナウイルスの感染拡大による国内経済の急速な落ち込みが懸念されており、BCB総裁は追加利下げの余地に言及していたことから、今会合でも大幅な追加利下げが予想されていました。

◆コロナ感染者数が急増し、景気支援を継続

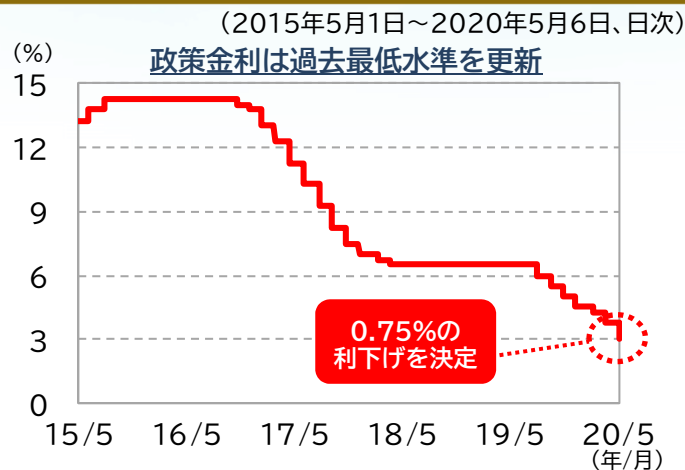
ブラジルでは4月後半以降、新型コロナの新規感染者数が急速なペースで増加しました。5月に入りピークアウトが見られるものの、足元では累計感染者数が中国を上回るなど依然厳しい状況が続いています。

ブラジル政府は経済対策として貧困層支援や医療分野への財政支出策を打ち出したものの財政余地は乏しく、BCBも利下げや流動性供給の拡大措置などを打ち出し、金融面でも大規模な景気刺激策を継続しています。ただし、BCBは金融政策での景気支援には限界もあり、次回会合に向けて、**財政シナリオと経済指標次第では、今回ほど大幅ではない最終的な利下げを検討する**と表明しました。

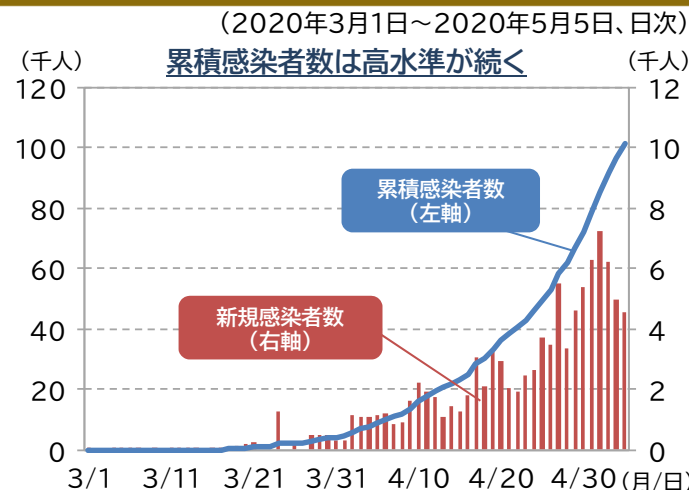
◆リアルはコロナ感染状況次第の展開に

ブラジルでは新型コロナによる景気悪化懸念に加え、感染対策を巡る政治的混乱により、通貨レアルの下落が加速しました。ボルソナロ大統領が「経済重視」の姿勢を変えない中、新型コロナ対策や汚職捜査を巡る主要閣僚との路線対立で保険相や法務相などが相次いで更迭されるなど、政権内の混乱が嫌気されました。足元では追加利下げを受けて過去最安値となる1米ドル=5.71レアルまで急落しています。今後は、「戦時予算法案」の審議が進展すれば追加的な財政支援が期待されるものの、一方で低所得者層を中心に外出自粛令を無視する動きが広がるなど社会隔離政策が十分機能していない模様です。大統領主導で経済封鎖を緩和する流れの中で、感染拡大が続く可能性も否定できないことから、その動向については十分注視していく必要がありそうです。

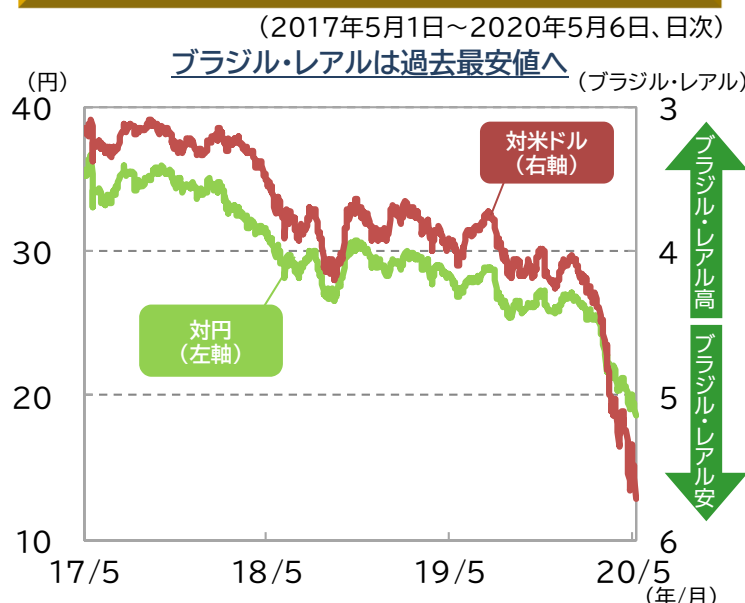
【図1】政策金利の推移



【図2】ブラジルの新型コロナ感染状況



【図3】ブラジル・レアル為替レートの推移



(出所) Bloombergデータ、ジョンズ・ホプキンス大学、各種報道を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。